■ JXホールディングス(5020) 第2次中期経営計画・長期ビジョン アナリスト説明会 Q&A

1. 日 時 : 3 月 28 日(木)16:30－18:00
2. 出席者数 : 160 名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 第２次中計期間中に、事業拡大を目的とした戦略投資からのリターンで 1,100 億円という大きな増益を実現する見通しとなっているが、今後新たに投資する案件からも同程度のリターンが期待できると考えてよいか。

A. 上流事業の投資リターンは、資源価格しだいで大きく変わってくるという面はあるが、現状の価格水準が継続するという前提では、基本的に同程度のリターンが期待できるという理解で結構である。

Q. 配当方針についてお聞きしたい。

A. 連結業績を反映した利益還元の実施を基本としながら安定期な配当の継続に努めてゆくことを基本方針としている。この基本方針に基づき、第２次中計期間（2013～2015 年度）においては 1 株当たり年間 16 円の配当の継続に努めるとともに、毎期の業績・投資計画・財務体質の状況を勘案して検討していくこととしている。

Q. エネルギー事業において、国内の石油製品需要が減少していく中で、どのような事業拡大を図っていくのか。

A. 国内の石油製品需要の減少に対しては、製油所の国際競争力強化や強靭なサプラインチェーンの構築により、収益力強化を図っていく。これに加えて、エネルギー変換企業として、電気、ガス、石炭、太陽光・燃料電池、水素事業の拡大を追求するほか、海外で需要の増加が期待される潤滑油、基礎化学品、機能化学品事業の拡充も図っていく。

Q. 石油・天然ガス開発事業について、引き続き 2020 年に 20 万 B/D の生産量を目指していくとのことだが、具体的にはどのような手法をとっていくのか。

A. コア事業国やコア候補国における探鉱・開発を中心に、重点技術の育成を図りながら生産量の拡大を図っていくとともに、案件を厳選しながら資産買収も検討していく。

Q. 金属の資源開発事業について、保有しているケチュア、フロンテラ等の開発推進により将来的な鉱山権益を上積みしていくとのことだが、第２次中計期間中にどの程度の進捗を見込んでいるのか。

A. 第２次中計期間中はカセロネスの開発完了に集中する一方で、ケチュアの採算性再検討と、フロンテラの探鉱活動を進める。したがって、これらが仮に開発決定されたとしても、その投資は第２次中計以降のタイミングになるだろう。

Copyright © 2013 JX Holdings, Inc.

以　上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

（1）マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化

（2）法律の改正や規制の強化、

（3）訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

Copyright © 2013 JX Holdings, Inc.